分野	31	地域活動・市民活動	通番 49
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
自治会活動支援事業	一般	2	1	8	17,388,445	自治・共助振興室

事業の概要

自治会長会において、各自治会における現状や相互に共通する懸案事項について、情報交換や交流会を継続して実施します。さらに、自治会が組織としての機能を発揮するように、運営補助と事業補助を行うとともに、自治会館等への補助制度を時代に応じたかたちに拡充し、住民自治活動を促進します。また、新たに未組織地域が発生しないよう関係機関に働きかけるとともに、自治会未組織地域の解消に向けた支援を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		自治会加入率				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
53.3（令和2年度）	目標	50.0以上	50.0以上	50.0以上	50.0以上	50.0以上	
	実績	52.6	50.1	47.5	45.0	43.2	

・各自治会で関心の高い災害対策について、6月に岡山県倉敷市真備町で管外研修を実施し、7月には「要配慮者支援制度」の勉強会を開催しました。
・10月から自治会活動への支援ツールとして「自治会サポ！」を導入しました。
・11月には、「市長と語る対話のわ」を開催しました。「第4次総合計画第3期基本計画から考える長岡京市のこれから」をテーマに活発な意見交換が行われました。
・冬季研修会では「自治会サポ！」を本格導入している自治会の事例を発表し、普及啓発に取り組みました。
・多様な自治会のあり方への支援体制や手法について、自治会と協議し、庁内で検討を進めました。

冬季研修会の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	自治会加入率	国勢調査では、単身世帯が増加しています。また大型マンションや開発地が自治会未組織となるケースが増えています。既存自治会からの脱会、未加入者も増加しています。	21

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・各自治会が転入者に声掛けをすることにより、新規自治会員の加入はありますが、死亡や施設入所等の社会的減少及び自治会活動への負担感により退会者が生じていることから、全体として加入率は減少となりました。 ・自治会役員の負担軽減や若年層の加入促進を目的に、自治会運営デジタル化支援ツール「自治会サポ！」を導入しました。各自治会への導入過程で、デジタルに精通した若年層が参画し、自治会運営の新たな変化が現れ始めています。

課題等

・特に高齢者が、自治会活動や役員の負担感により脱退されるケースが多くなっています。
・自治会員の高齢化と役員の後継者不足により組織が弱体化し、維持が難しくなっている自治会も出てきています。
・新たに建設されたマンションや開発された区域が自治会未組織・未加入となることが増えています。
・地域の特性に応じた自治会運営に対するきめ細かい支援が求められています。

5年間の総括

A（総括）

コロナ禍以降、自治会加入率の減少が加速し、一部の自治会では運営が厳しくなっています。こうした状況を受け、自治会からの多様な要望に応える形で、自治会運営デジタル化支援ツール「自治会サポ！」の導入や、マンション等共同住宅の住民と近隣地域住民とのつながりやコミュニケーション不足を解消する「マンション等みなし自治会登録制度」の創設など、新しい自治や自治会のあり方を模索しました。すぐに自治会加入率を向上させる施策を打ち出すことは難しいものの、時代のニーズや背景に即した新しい自治や地域のつながりづくりに向けた取組を行いました。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 50
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
地域コミュニティ活性化事業	一般	2	1	18	15,796,973	自治・共助振興室

事業の概要

防災や高齢者の見守り等、地域に期待される互助・共助の意識向上を目指し、地域のコミュニティの活性化を進めます。地域コミュニティ協議会の役割を明確化し、全小学校区でのコミュニティ協議会など校区を単位とした住民連携組織の設立に向けた支援を行うとともに、地域における自主運営体制の確立に向けた支援を行います。また、地域における各種団体の存在意義や役割を明確化し、重複する事業の整理統合等を進め、地域活動団体の負担軽減や連携強化を推進します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		小学校区での住民連携組織の設立数				単位	校区
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
8（令和2年度）	目標	8	9	10	10	10	
	実績	8	9	9	9	10	

・神足小校区に準備委員会を設立し、事業や活動の調整役・行政とのパイプ役を担う地域コーディネーターを配置しました。
・一部統合した補助金事業について、地域の主体性をもって活動できるよう、その運用に関して関係部署間や地域と協議・調整する形で伴走支援しました。
・神足小・長六小を除く8校区では、地域住民の自主性をより高めるため、地域コーディネーターを置かない住民主体の事務局運営を実施しました。

長七小　みんなのつどい

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	ソーシャルキャピタル（社会関係資本）	「近所付き合いの状況」は低く、「地縁的な活動（地域・団体活動への参加状況）」については高いです。	62

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・令和7年6月に神足小校区地域コミュニティ連絡協議準備委員会が立ち上がり、全10校区で住民連携組織が設立されました。

課題等

・担い手不足や役員の新陳代謝が課題となっており、財政支援だけでなく、地域の特性や課題に沿った伴走支援を検討する必要があります。
・神足小校区・長六小校区では住民主体の事務局運営に向けて検討する必要があります。

5年間の総括

A（総括）

・地域に期待される互助・共助の意識向上をめざし、各種団体の存在意義や役割を明確化し連携することで、全小学校区の特性に合わせた形での住民連携組織を設立しました。
・地域における校区単位の各種地縁団体等に支払う補助金について、より校区の特性を活かし、地域の主体性をもって活動できるよう、関係部署間や地域と協議・調整し、一部統合するなどの見直しを行いました。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 51
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
助け合いとつながり事業	一般	2	1	18	244,121	自治・共助振興室

事業の概要

「助け合いとつながりのまちづくり条例」に基づき、参加者が座学やワークショップ、地域活動体験等を通して、自分たちの地域を知り興味を持つことができる「多様な市民が考える場」を開催するなど、市民と地域のつながりを創出し、地域活動等の参加促進や将来的な地域の担い手育成につなげます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	「多様な市民が考える場」の参加率（各回） ※参加率は、参加メンバーとなった者が、ワークショップ等に参加した割合。					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
参考：「自分ごと化会議」の参加率（41%）	目標			60以上	60以上	60以上	
	実績			60.7	19.5	52.4	

・令和7年度の「考える場（まち活MTG）」は、第2期メンバー始動の年になることから、無作為抽出やLINE等を活用した周知により公募を募り、12月～3月にかけて6回開催しました。
・第1期メンバーとの活動報告交流会などを行い、第2期メンバーの活動イメージを膨らませ、全6回のワークショップの中で、活動チームや企画づくりに取り組みました。
・市民活動サポートセンターと連携し、まち活MTG参加者への市民活動に関する理解の成熟度に沿った伴走支援をおこないました。

まち活MTGの様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	ソーシャルキャピタル（社会関係資本）	「近所付き合いの状況」は低く、「地縁的な活動（地域・団体活動への参加状況）」については高いです。	62

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・新しいメンバー（第2期生）の始動の年であり、比較的高い参加率となりました。 ・考える場（まち活MTG）を、参加を強制しない自由参加ができるワークショップ形式で行うことで、新しい活動団体が生まれ、小さな活動のスタートに繋がっています。
課題等	・まち活MTGを卒業してからも活動が継続できるよう、交流の場や相談の場を設けたり、市民活動に関する理解の成熟度に沿った伴走支援により、活動の継続化と効果的な活性化につなげる必要があります。		

5年間の総括

A（総括）

・第1期メンバーは、まち活MTGの活動を終えた後も、市民活動サポートセンターでの団体登録や市補助金を活用した事業に取り組むなど、自立した活動発展につなげることができ、現在もそれぞれが活動を継続しています。
・既存の活動団体・個人だけでなく、潜在的に地域での活動を考えている人の参加から新たな活動が生まれることで、地域活動等の裾野の拡大や、将来的な地域の担い手育成につなげることができました。
・「多様な市民が考える場」では、気軽かつロジカルなワークショップ展開により、比較的若年層や、活動初心者などの「まち活」参加のきっかけを創出することができました。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 52
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
市民参画協働推進事業	一般	2	1	18	1,155,878	自治・共助振興室

事業の概要

市民活動団体への財政的支援や活動拠点の提供、幅広い市民の参画の促進、情報発信や啓発などを実施します。
また、計画的に施策を進めるため、「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」の進行管理を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」の施策達成率				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
70.8（令和元年度）	目標	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0	
	実績	75.4	84.2	86.0	87.7	89.5	

・市職員の協働意識向上のため、入庁1年目の職員を対象に研修を開催しました。
・市民参画協働懇話会を2回実施、市民協働のまちづくり推進プランの進行管理や補助金制度等について意見聴取しました。
・市直営となった市民活動サポートセンターでは、「みんなの未来をつくるまち活補助金」事前相談体制を強化しました。
・同補助金採択団体の活動発表交流会を行い、団体同士の交流や、マッチングの場を創出しました。
・市民参加型合意形成プラットフォーム「Voice NAGAOKAKYO」の実証実験を経て令和8年度からの本格導入を決定しました。
・推進プランは、より質の高い協働や目指すべき姿に沿ったものとするため、令和8年度以降に市民参画・協働にかかるガイドライン（仮）として刷新します。

活動発表会の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民活動サポートセンター登録団体数	直営化を機に、市民活動サポートセンターの目的に沿った登録制度の運用を行った結果、前年度と比較して10.8%減少しました。	22

達成度合		達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）		・入庁1年目職員を対象とした職員研修のアンケートの満足度は100%でした。 ・みんなの未来をつくるまち活補助金については、サポセンでの事前相談体制の強化などにより、申請のあった「はなさくコース」3件、「たねまくコース」10件全てが採択され、補助金（887千円）を交付しました。 ・市民活動オフィスフロアの利用促進に向け、広報、HPの掲載及び利用者への更新案内を行い、6団体7ブースの利用がありました。

課題等

・数的管理に捉われない形で、事例等から市民参画・協働の視点が盛り込まれたガイドライン（仮）にしていく必要があります。
・無関心層にも、市民活動という市民協働によるまちづくりを認知してもらえるようなきっかけを創出していく必要があります。
・令和8年度から本格導入となる「Voice NAGAOKAKYO」を始めとする、DXを通じた市民の市政参画機会の拡充に取り組む必要があります。

5年間の総括

A（総括）

・継続的な職員向け研修を行うことで、組織として市民参画・協働に対する意識醸成が進んできており、市民参加型合意形成プラットフォーム「Voice NAGAOKAKYO」のスムーズな活用にもつながりました。
・「みんなの未来をつくるまち活補助金」においては、財政的自立や早期課題解決を意識した事業の育成が進んでいる一方、新規の団体設立や事業申請も活発化しており申請団体の新陳代謝が図れています。
・推進プランの目標達成率が高い水準を保っており、市民協働のまちづくり意識が定着してきています。
・LINEやVoice NAGAOKAKYOなどのデジタルツールを活用した、あらゆる世代の市政参画機会が整備され、職員、市民双方の協働意識の向上が見られます。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 53
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
市民活動サポートセンター事業	一般	2	1	14	11,595,690	自治・共助振興室

事業の概要

市内のNPO法人などの市民活動団体の広がりや、ステップアップ、団体と地縁組織を含めた多様な主体との連携を促進するため、市民活動サポートセンターを中間的な支援機能を担う拠点として、指定管理者制度を活用し、民間のノウハウを持つ団体が、市民への紹介、団体同士及び団体と市民のネットワークづくりの支援、新規に活動をしたいと考える市民に対する相談及びアドバイスを行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		市民活動・ネットワークづくりに関する延べ相談件数				単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
63（令和元年度）	目標	70	80	90	100	110	
	実績	83	83	78	110	176	

・サポセンに求められる機能やあるべき姿として、柔軟なマッチングの仕組づくりを強化するため、令和7年度から市直営化（一部委託）しました。
・市民活動への相談に対するアドバイスの充実を図るため、中間支援を専門に行うNPO法人への委託を開始しました。
・市民や活動団体向け講座を開催し、サポセンが支援の対象としている団体の「公益性」「非営利」などについて周知しました。

市民活動サポートセンター

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民活動サポートセンター登録団体数	直営化を機に、市民活動サポートセンターの目的に沿った登録制度の運用を行った結果、前年度と比較して10.8%減少しました。	22

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・登録団体数（施設利用ができる団体数）は149団体となりました。 ・中間支援の専門相談委託を開始したことで、市民活動・ネットワークに関する相談件数は176件となり、目標を大きく上回りました。 ・まち活補助金やまち活MTG事業と連携し、団体間の交流や、新規団体立ち上げの伴走支援を行うことで、多種多様な団体設立や活動への支援につながりました。 ・多様な主体のマッチングを促進する仕組みとして、ボランティアと活動をつなぐラックの設置や、まち活補助金で自治会等地縁団体の支援につながる補助の仕組などを構築しました。

課題等	・地縁団体を始めとする多様な主体のマッチングをさらに促進していくため、新たに構築した仕組を活発化させ、市民活動サポートセンターの中間的な支援機能を強化していく必要があります。

5年間の総括

A（総括）

市民活動サポートセンターの機能や位置付けを改めて見直し、講座の主催や活動相談を行う中で、市民活動や市民協働の本質を丁寧に伝え伴走することで、活動団体や職員ともに協働のあり方の理解が進んでおり、それぞれの市民活動がより活発化し、より地域に還元されるようになってきています。
中間支援人材の配置による質の高い相談体制構築により、中間支援機能が強化された結果、マッチングや新しい協働が促進され、市民活動の広がりやステップアップにつながっています。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 54
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
多世代交流ふれあいセンター事業	一般	2	1	19	12,676,707	多世代交流ふれあいセンター

事業の概要

地域活動・市民活動を支える拠点の一つとして、また世代を超えた市民の幅広い交流を促進し、市民活動、男女共同参画、地域福祉、健康づくり及び生涯学習に寄与する場の提供、充実を図ります。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	多世代交流ふれあいセンター利用者数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
33,355（令和元年度）	目標	34,500	35,500	36,500	37,500	38,500	
	実績	26,035	33,312	33,994	33,601	37,243	

・医師会移転後のフロアを自習室とし、市内在住・在勤・在学の方を対象に午前9時～午後7時まで無料で開放しました。令和7年度の利用者数は延べ3,265人でした。「静かな環境で無料で利用できる自習室は貴重」と好評を得ました。
・交流室の利用のない時間帯に同室設置のグランドピアノを希望者が無料で演奏できるフリーピアノ事業の令和7年度利用者数は615人でした。「広い空間で良質なグランドピアノを弾くことができる」と好評を得ました。

交流室での活動の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	主な社会教育施設等の利用者数	コロナ禍で低下した利用者数は、回復傾向にあります。	28

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・全フロア合計の年間利用者数は37,243人であり、達成目標に対する実績は96.7%となりました。 ・自習室とフリーピアノの利用状況が好調であり、利用人数も対前年比1.11と増加しました。

課題等

・施設の老朽化に伴う施設修繕が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ利用者数も回復し、目標値を概ね達成しました。特にフリーピアノや自習室の利用が多くの方に親しまれていることが大きな要因です。今後も各フロアの利用を促進し、世代を超えて市民が広く交流できる親しみやすい施設を目指します。
・令和6年度に全館LED化を完了し、省エネルギー化と維持管理コストの削減を実現しました。今後も施設利用者の利便性と安全性を確保するために必要な修繕を行い、施設の長寿命化を図る必要があります。

分野	32	人権	通番 55
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
人権啓発推進事業	一般	2	1	16	571,730	共生社会推進課
	一般	10	1	3	1,234,164	

事業の概要

全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指し、市内人権団体などと、さまざまな人権啓発事業を実施します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	人権啓発事業への参加者数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
6,152（令和元年度）	目標	5,700	5,950	6,200	6,200	6,200	
	実績	4,916	5,496	5,427	5,654	5,511	

・12月6日（土）に「人権・男女共同参画フォーラム」と「障がい者児の人権を考える市民のひろば」を合同で開催し、関係団体の発表、パネル展示、蓬莱大介氏の講演会などを行いました。
・全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指して、人権啓発作品（標語・ポスター・写真）を募集しました。
・市民団体である人権啓発推進協議会と連携し、人権バスツアーや様々な人権に関する公開講座などを開催しました。
・6月「男女共同参画週間」や11月「パープル＆オレンジリボンプロジェクト」に合わせ、男女共同参画の推進と女性への暴力防止、児童虐待防止の啓発を実施しました。

市民人権バスツアー

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・12月6日の合同開催は、体験コーナーやスタンプラリー・講演会と盛りだくさんの内容で、来場者の関心を高めることができました。アンケート結果から約7割の人に人権意識を深めてもらうことができました。 ・人権啓発推進協議会をはじめ、各種人権団体と協働することで、多様なテーマの人権課題について広く学べる機会を提供しました。 ・人権啓発作品は、4,410点の応募があり、受賞作品を展示した市民集会は、参加型のイベントにすることで多くの親子連れが来場しました。 ・ニーズに即した多角的な事業を行うことで、男女共同参画意識の向上を図りました。

課題等

・未だ同和問題や女性、こども、高齢者、障がいのある人、外国人等に対する様々な人権問題が存在しています。
・近年は、SNSなどのインターネット、災害時における人権侵害など、新たな人権問題も発生しています。

5年間の総括

A（総括）

・第3次長岡京市人権教育・啓発推進計画策定に関する市民意識調査において、「市民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている」の項目に対して肯定的な意見が55.6%と否定的な意見を6.3ポイント大きく上回っており、この5年間の市、各種団体、市民の人権教育及び啓発活動の成果があらわれました。
・多様化・複雑化する社会の中での人権問題について、一人ひとりが自分の問題として認識し、正しい知識を身に付けるため、新たなテーマを織り交ぜながら、講演会やワークショップ、フィールドワークを通じた交流体験など様々な催しを実施することができました。

分野	32	人権	通番 56
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
北開田会館地域交流事業	一般	3	1	4	2,081,227	北開田会館

事業の概要

地域の拠点施設である北開田会館を活用した地域活動等や貸館業務を通じて地域住民と周辺地域住民との交流を深め、同和問題（部落差別）をはじめあらゆる人権課題の解決に向けた各種事業を推進します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	北開田会館における人権啓発事業の利用人数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
4,532（令和元年度）	目標	4,600	6,000	6,100	6,150	6,200	
	実績	1,187	1,283	1,733	1,717	1,578	

文化教養教室：習字教室（27回）、手話教室（20回）、囲碁・将棋教室（94回）、ヨーガ教室（20回）、いきいき体操教室（10回）、ハイキング教室（8回）、手づくり教室（2回）、陶芸教室（4回）、料理教室（1回）、京文化教室（4回）、手話体験会（2回）、ゲートボール教室（2回）
北開田会館デイサービス事業：寄せ植え教室（2回）、社会適応訓練（1回）、ニュースポーツ（5回）、レクリエーション（2回）、合唱（2回）
・人権教育指導員による各種研修も33回開催しました。

京文化教室の1コマ

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	C：目標の一部を達成できなかった	達成状況	・指標の目標値には、行政の研修及び会議等の利用人数を含んでいましたが、事業の趣旨を考慮し、実績では市民が参加した文化教養教室及びデイサービス事業の人数を測定しており、目標とかなり差異が生じています。 ・文化教養教室及びデイサービス事業において、前年度から内容も変更して柔軟に対応しましたが、実績人数は昨年度と比べて減少しました。 ・人権教育指導員による各種人権研修は前年度（30回）から3回増え33回行い、計1,577人が参加しました。

課題等	利用者の固定化や高齢化が進んでいることから、新規利用者の増加と館全体の活性化を目指し、企画内容をさらに充実させることが課題です。

5年間の総括

A（総括）

・当初設定した指定値の目標や捉え方に見直しの余地があったため、目標値と実績の差異が生じましたが、この経験を活かし、今後はより適切な目標設定に向けた取組を進めます。
・令和3年度から比較すると実績値は大きく伸びており、着実に成果を重ねました。後半は伸びが落ち着いているものの、この状況を踏まえ、各種事業を引き続き推進していきます。
・当初設定した「5年後の目標」の内容については、一定の寄与ができました。

分野	32	人権	通番 57
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
平和施策推進事業	一般	2	1	16	478,079	共生社会推進課

事業の概要

戦後80年近くが経過し、戦争体験が風化しつつある中で、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、いのちの尊さを次世代に引き継いでいくため、行政として中立的な立場から「平和を考える市民フォーラム」等の開催や、インターネットを利用して戦争・平和に関する資料を掲載する「バーチャル平和祈念館」を活用し啓発活動の充実に取り組みます。とくに学校教育現場での活用を推進し、若年層への平和意識の積極的な醸成に取り組みます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	長岡京市バーチャル平和祈念館のアクセス数					単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
13,894（令和元年度）	目標	15,000	15,800	16,600	17,500	18,500	
	実績	18,950	33,987	36,237	34,615	26,849	

・平和フォーラムでは平和祈念碑、戦没者追悼之碑への献花式の後、式典や講演会、展示などを実施しました。
・戦後80年の節目の年にあり、例年の催しに加え、絵本「あらしのよるに」の作者 きむらゆういち氏による講演会のほか、紙コプター作りや、広島市より借用したVRゴーグルによる原爆被害体験などを実施し、親子で参加しやすい平和について考える機会を提供しました。
・千羽鶴も多くの学校に呼びかけ、昨年度の2倍となる1，929人が参加しました。
・小学校と立命館大学国際平和ミュージアムでの平和学習などを実施しました。

平和フォーラムの講演会の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合		達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）		・バーチャル平和祈念館のページを見やすく整理をした結果、クリック数が減少したと推測され、昨年度のアクセス数を下回ったものの、目標値を大きく上回りました。 ・平和施策の参加者数は、令和6年度の1，271名から2，350名へと倍増しました。戦後80年の節目の年に、多くの市民や学校が積極的に参加し、平和について考える機会を提供できました。 ・毎年、平和学習を市内の小学校1校で実施していますが、令和7年度は2校に拡大し、神足空襲や市の取組など、通常の授業では学ぶことができないことを知ってもらう機会としました。

課題等

・平和啓発イベントに対して、若い世代の関心を高める工夫が必要です。
・バーチャル平和祈念館の利用促進、特に若年層のリピート促進のための工夫が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・戦後80年を迎え、戦争体験者から引き継いだ平和への思いを次世代へ伝えるため、5年間にわたり多様な取組を実施しました。世代を超えて平和について考える機会を提供するため、幅広い年代が参加できる千羽鶴の作成、保育園児による平和祈念碑への献納、小学生によるすいとんづくり、高校生による平和フォーラムの司会など、主体的に関わる場を設けました。
・平和フォーラムは、子どもたちが参加しやすくなるよう工夫し、小学校での平和学習も継続しました。
・平和施策において最も重要なのは「継続すること」であり、これからも多くの人と協力していきます。

分野	32	人権	通番 58
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
男女共同参画社会の実現事業	一般	2	1	17	8,272,218	男女共同参画センター

事業の概要

男女共同参画社会の形成には、あらゆる世代の市民が、固定的性別役割分担意識や男女の不平等感を払拭し、男女共同参画の視点と意識を持つことが必要です。そのため、多様な選択を可能とする学習機会の確保や、各種啓発事業の充実を図るとともに、女性活躍を推進する環境作りを進めます。また、誰もが様々な問題や悩みを安心して相談できる体制を整備するとともに、関係機関との連携のもと、ドメスティック・バイオレンスや児童虐待への対応を強化し、DV被害者等へのワンストップ支援体制の充実を図ります。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	審議会等の市民公募委員への女性委員参画比率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
45.3(令和元年度)	目標	46.0	46.0	48.0	48.0	50.0	
	実績	52.8	54.0	54.5	49.1	44.1	

・審議会等の市民公募委員については、長岡京市審議会等への女性委員の登用推進要綱に基づき、事前協議書の確認を行い、女性の参画拡大につなげました。
・男女共同参画推進講座を15講座実施しました。人権・男女共同参画フォーラムでは、蓬莱大介氏による講演の他、男女共同参画川柳、パープル＆オレンジリボンプロジェクトに寄せられたメッセージ、市民意識調査結果等の資料、男女共同参画フロア“いこ～る”の活動団体のパネル展示等を行いました。
・「面接相談」「電話相談」「DV電話相談」「女性のカウンセリングルーム」「女性の法律相談」「男性電話相談」を行うとともに、必要に応じて長岡京市DV対策及び困難な問題を抱える女性への支援に係るネットワーク関係機関と連携し支援しました。

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
評価指標	「地域で」「社会全般として」男女が平等になっていると考える市民の割合＜男女ごと＞	男性では「地域で男女平等」と考える割合が増加し、女性では「地域で男女平等」「社会全般で男女平等」と考える割合がともに増加しました。	25

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・審議会等の市民公募委員への登用は44.1%と目標を下回りました。 ・講座参加人数は774人となり、男女共同参画の意識づくりにつなげることができました。 ・「パープル＆オレンジリボンプロジェクト」への参加者は633名でした。高等学校1校へ「デートDV」の出前授業を行い、暴力被害の未然防止と誰もが安心して暮らせる社会づくりに向け意識啓発を行いました。 ・令和7年度の相談件数は、面接と電話による「一般相談・DV相談」が816件（内DV62件（7.6%））、「女性のカウンセリングルーム」が111件（内DV36件（32.4%））、「女性の法律相談」が23件（内DV3件（13.0%））、「男性電話相談」が19件（内DV0件（0%））となりました。

課題等	・審議会等の市民公募委員を選任する際、男性のみの応募となる場合があります。

5年間の総括

A（総括）

・市民公募委員が男性のみの審議会等が多くなり目標を下回る結果となりました。
・女性の参画をさらに広げるため、市内で活躍する女性を講師に迎え、女性活躍推進講座を実施してきました。
・引き続き、幅広い分野への女性の参画拡大に向け、担当課へ働きかけを行うとともに、全体の女性参画比率を上げるために、講座の実施や自治会等を通じた啓発により男女共同参画の推進を図ります。

分野	32	人権	通番 59
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
性の多様性理解促進事業	一般	2	1	16	214,070	共生社会推進課

事業の概要

LGBTなど、新たな人権課題である「性の多様性」への理解を進めるため、市民・学校・事業所等への啓発の充実を図るとともに、市としての発信に取り組みます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	性の多様性理解促進に関する取り組み					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	パートナーシップ制度の実施	LGBTリーディングカンパニー制度の検討	LGBTリーディングカンパニー制度の実施	制度の運用	制度の運用	
	実績	パートナーシップ制度の実施	LGBTリーディングカンパニー制度の検討	にじいろ企業登録制度の制定	制度の運用	制度の運用	

・市内企業数社を訪問し「にじいろ企業登録制度」に登録していただけるよう、啓発活動を行いました。
・イベントにてパートナーシップ宣誓制度のチラシを配布し、制度の周知を行いました。
・性的少数者やその周囲の人たちが気軽に集まり交流できるコミュニティスペースや市民を対象とした講座を開催しました。
・プライド月間（6月）に性の多様性パネル展を市役所ロビーで実施しました。

性の多様性ワークショップ

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	LGBT（性的少数者）という言葉の認知度	近年、性の多様性への理解は広がりつつあり、LGBT（性的少数者）という言葉の認知度も9割以上と高くなっています。	27

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・「にじいろ企業登録制度」に10事業所が新規登録し計24社となりました。 ・新たに1組のパートナーシップ宣誓があり、計4組となりました。 ・市内の事業所を対象に性の多様性に係る講座を実施しました。 ・5歳から小学生を対象にしたバスボム作りのワークショップを通じて、性の多様性への理解を深める場を提供しました。

課題等

・にじいろ企業登録制度について、企業や事業所へ周知と合わせて、理解促進の支援が必要です。
・パートナーシップ宣誓制度を契機とした取組（行政サービス等）の推進を図ることが必要です。
・当事者のニーズを把握する機会が少ないのが現状です。

5年間の総括

A（総括）

・長岡京市議会議員政策研究会性の多様性社会研究分科会から「パートナーシップ制度（仮称）の導入」、「LGBTリーディングカンパニー制度（仮称）の導入」提言を受け、令和3年に「パートナーシップ宣誓制度」を、令和6年に「にじいろ企業登録制度」を導入することができました。
・京都市、亀岡市、向日市と連携して、コミュニティスペース「京都まぁぶるスペース」を開設し、性的少数者やその周囲の人たちが気楽に集まり交流できる施策を展開しました。

分野	32	人権	通番 60
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
障がい理解・合理的配慮提供促進事業	一般	3	1	8	277,517	障がい福祉課

事業の概要

障がい者差別の解消や理解促進を図るため、障がい特性の理解と合理的配慮の事例を学ぶ機会の創出や、主体的に行動できるサポーターづくりに取り組みます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	障がい特性理解のための研修を受け、「あいサポーター」となった市民・事業者の数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
719（令和元年度）	目標	880	1,030	1,230	1,430	1,630	
	実績	1,236	1,346	1,509	1,810	1,932	

・障がいのある人に対しての手助けや配慮等を実践するあいサポーターの養成を通じて、誰もが暮らしやすい社会を目指すあいサポート運動を推進するため、「あいサポーター養成研修」を行いました。オンライン研修について、市ホームページやチラシで周知しました。
・ホームページや広報紙に合理的配慮の取組やあいサポート運動の概要、ほっとはあと製品（障がい福祉事業所の製品）の紹介等を掲載し、啓発を行いました。

あいサポーター養成研修の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
評価指標	障がい者（児）に対する「生活に必要な支援のニーズ」について問うアンケートで、 ①「障がい者にとって住みやすい家が準備されていること」が選択された割合 ②「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が選択された割合	・この設問には、例えば「生活に必要なお金の負担が軽減されること」や「相談できる場所や人等が充実していること」など13項目あり、複数選択可能です。 ・その中で①「障がい者にとって住みやすい家が準備されていること」が選択された割合は減少傾向にあるものの、約4分の1の人が住まいに何らかの支援を求めています。同時に②「必要な福祉サービスが適切に利用できること」との回答割合も減少傾向ではあるものの、約半数の人が必要な福祉サービスの適切な利用を望んでいます。	16

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・市民、団体、市職員を対象に計6回のあいサポーター養成研修を実施し、122人のあいサポーターを養成しました。市職員に対する研修は、新入職員への集合研修を実施しました。

課題等

・改正障害者差別解消法改正が令和6年4月1日から施行されたことで、民間事業者にも合理的配慮が義務化されています。民間事業者にも法改正の内容とともに、障がいに対する理解を深めてもらうことが重要です。
・誰もが暮らしやすい長岡京市を実現するために、障がいのある方に対し配慮できるあいサポーターのさらなる養成が必要です。

5年間の総括

A（総括）

あいサポーターとなった市民や事業者の数は、目標を達成しました。しかし、人口割合に対して目標設定が低いのではないかというご意見もあるため、障がい者基本条例の趣旨に基づき、障がい者への差別解消や理解促進を目的としたあいサポート運動のさらなる周知啓発が必要です。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 61
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
各種団体・サークル等活動支援事業	一般	10	4	2	350,460	中央公民館

事業の概要

公民館で活動しているサークルの活動紹介等を通じて、公民館に来館し、活動する市民を増やします。館内の発表会・パネル展示・広報紙に加え、中・高・大学生、壮年等の世代別の広報も展開し、新たな市民利用を呼び込みます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標①	公民館（社会教育ホール）登録団体件数					単位	団体
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
166（令和2年8月末現在）	目標	170	175	180	185	190	
	実績	182	190	155	168	177	

指標②	公民館（社会教育ホール）登録団体による利用件数【児童室・焼成炉室除く】					単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
2,869（令和元年度）	目標	2,900	2,930	2,960	2,990	3,020	
	実績	1,921	2,678	2,802	2,672	2,730	

・公民館サークル連絡協議会（略称：公サ連）の会員が中心となり、市民ギャラリーの作品展示や館内での募集看板の掲示及びガラシャ祭時の体験会場であるオープンハウスを利用したサークル加入のための広報活動を実施しました。
・公民館での活動に興味をもっていただけるよう、ロビーに設置しているデジタルサイネージの情報をイベントごとに更新し、最新の情報を提供するすることで、効果的に周知しました。

オープンハウス（編み物クラブ　椿）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	主な社会教育施設等の利用者数	コロナ禍で低下した利用者数は、回復傾向にあります。	28

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・目標には達しなかったものの、令和7年度は貸館休止期間が無く、令和6年度より微増しました。

課題等	・高齢化による団体登録件数の減少が見込まれるため、更なるサークル会員の確保に向けた取組が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・コロナ禍後も登録団体数の大きな増加はないものの、中央公民館の活動について広報を行うことで、新たなサークルの登録が見られました。
・令和4年度には、コロナ後3年ぶりに公サ連まつりを開催し利用件数が大幅に増加しました。それ以降は、貸館休止期間がありながらも、利用件数は維持しました。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 62
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
公民館市民講座開設事業	一般	10	4	2	1,239,535	中央公民館

事業の概要

市民生活が生涯学習を通じて潤いあるものとなるように、様々な学習ニーズに対応した講座を実施します。
また、実際生活に関する学習課題を市民自らが講師となり共に解決していく「市民企画講座」を実施します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	公民館主催講座の参加者数（児童室一般開放を除く）					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
6,013（令和元年度）	目標	6,130	6,190	6,250	6,310	6,370	
	実績	3,877	5,099	5,119	4,956	4,781	

・各世代のニーズに応じた講座として、青少年教育（少年少女発明クラブ12回）、男女共同参画（男女共同参画講座1回）、高齢者教育（熟年生き生き講座12回、高齢者向け健康プログラム10回）、家庭教育（ぴよぴよクラブ10回、子育てふれあいルーム72回、多文化共生子育て講座1回）、福祉教育（聴覚言語障がい者学級2回）を実施しました。
・公民館での子育て事業や各種講座への託児に従事する子育てボランティアを養成する講座5回、子育てボランティア同士の情報共有の場としてサポーターふれあいネット12回を実施しました。
・市民企画講座は、31企画、68講座を実施しました。これまで趣味講座と社会教育的講座が混在し、企画数が増加していましたが、次年度に向け、社会教育施設である中央公民館が教育的な講座を効果的に行えるよう、明確な基準の設定や内容の整理を行いました。

市民企画講座

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	主な社会教育施設等の利用者数	コロナ禍で低下した利用者数は、回復傾向にあります。	28

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・市民企画講座では、講座終了後にアンケート調査を実施し、集約結果を講師と共有することで、参加者ニーズの把握と次回への取組課題への反映につなげており、参加者の満足度は80%～100%となっています。
課題等	・社会教育施設として今後開催する講座について、現代のニーズに即したテーマをどのように設定するかが課題です。		

5年間の総括

A（総括）

・市民企画講座は、平成30年度の本格実施から7年が経過し、広く認知されるようになりました。一方で、講座の増加により、サークル活動で利用できる部屋が減少する問題や、趣味講座と教育的講座が混在し、趣味講座はバンビオ（中央生涯学習センター）で開催する講座内容と重複している課題もありました。これらの課題解決のため、中央公民館は社会教育施設としての原点に立ち返り、教育的講座を効果的に実施できるよう、次年度に向けて講座内容の整理と基準の明確化を進めました。この取組により、講座の質を向上させるとともに、より充実した社会教育を目指します。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 63
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

	実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
		会計	款	項	目		
P（概要）	中央生涯学習センター事業	一般	10	1	5	77,911,519円	生涯学習課

事業の概要

人生100年時代を迎え、生涯学習社会への重要性が高まっています。市民の主体的な学びの場として、また、学習機会や情報を提供する場として、中央生涯学習センターを管理運営します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		中央生涯学習センター貸室利用率				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
48.7（令和元年度）	目標	30.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	実績	30.1	40.9	43.6	46.2	50.9	

・中央生涯学習センターの管理運営は、指定管理者である大阪ガスビジネスクリエイト株式会社に委任しています。
・指定管理者の自主事業として、「おとくにでおんがくでつながろうプロジェクトわくわく♫みんなでプラス」、村田製作所工作教室、長岡京奮闘落語会など、各種講座を行いました。
・生涯学習機関紙「be→!」や「バンビオここから通信」を全戸配布し、イベントの告知や施設利用サークルの紹介などの情報発信を行いました。

自主事業（みんなでプラス）の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	主な社会教育施設等の利用者数	コロナ禍で低下した利用者数は、回復傾向にあります。	28

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・コロナ禍で低下した貸室の利用者数は回復傾向にあります。利用者数は166,909人となり、前年度の150,010人を上回りました。主に、時間貸し（学習室、会議室）の利用が増加し、稼働率は50%を超えました。 ・ガラス飛散防止フィルムの張替えや貸室用の折り畳みテーブルの更新など、経年により劣化した設備や備品の修繕や更新を行いました。 ・指定管理者の自主事業として講座やイベントを積極的に行い、事業への参加を通じて、多くの人に新たな学びの機会を提供しました。
課題等	・利用者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設設備や備品の計画的な修繕や更新を行う必要があります。		

5年間の総括

A（総括）

・魅力的な講座やイベントを実施し、生涯学習及び施設利用のきっかけづくりを行い、コロナ禍で低下していた利用者数や利用率は回復しています。
・コロナ禍で、貸室利用率は30%まで低下しましたが、令和7年度には目標の50%を超えました。
・利用率が低い貸室は、今後も自主事業で活用するなど工夫し、利用率向上を図ります。
・快適に施設を利用できる環境を提供するため、施設整備や備品の修繕更新を計画的に行う必要があります。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 64
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
図書館サービスの推進・充実事業	一般	10	4	3	11,942,320円	図書館

事業の概要

読書啓発活動を推進するとともに、今まで図書館を利用していない人にも魅力を感じてもらえるアプローチの手法を検討・実施します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		1冊あたりの年間稼働率（回転数）				単位	回
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
1.58（令和元年度）	目標	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70	
	実績	1.72	1.70	1.70	1.69	1.95	

読書啓発活動として、以下の取組を実施しました。
・絵本の読み聞かせ、図書の紹介、読書講演会などの読書推進イベントを、乳幼児対象88回、小学生対象29回、中高生～大人対象31回、全世代対象6回の計154回実施しました。この取組により、幅広い世代に読書の魅力を伝え、読書を楽しむきっかけを提供しました。
・図書館内に市の情報コーナー「まちとしょ」を設置し、関係部署と連携して市の行事や施策に関するPR展示と関連図書の展示を実施しました。この取り組みにより、市民に市の情報を身近に伝え、関連する知識や学びを深める場を提供しました。

本の紹介イベント「いい本みっけ」

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・令和6年度に引き続き、地域文庫やボランティアと連携しながら積極的にイベントを開催し、図書の特集展示等を通じて読書啓発活動に注力しました。 ・令和7年度から貸出冊数の上限を従来の5冊から10冊に引き上げ、図書館資料の利用促進と利用者の利便性向上を図りました。 ・年間の貸出冊数は令和6年度の410,827冊から令和7年度の475,215冊へと64,388冊増加しました。1冊あたりの年間稼働率（回転数）も、令和6年度の1.69から令和7年度の1.95に向上し、目標である1.70を達成しました。

課題等

・インターネットやスマートフォンの普及による読書離れが懸念されており、読書の楽しさや図書館の魅力を継続して伝える必要があります。
・老朽化した機器・設備の更新や、誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインへの配慮、変化する市民ニーズへの対応など、図書館環境の整備が課題です。

5年間の総括

A（総括）

・蔵書の充実を図りながら、幅広い年代に向けた読書推進イベントを定期的に開催し、季節やテーマに合わせた図書展示を行うことで、市民が読書に親しむ機会を提供してきました。また、貸出券をスマートフォンで表示できる仕組みの導入や貸出冊数の上限引き上げなど、利便性向上を目的とした取り組みも進めてきました。これらを通じて、年間約14万人の利用があり、地域の読書啓発活動を推進することができました。
・施設は築約40年が経過し、老朽化が進んでいるほか、市民ニーズの変化に対応した施設環境の整備が重要な課題となっています。今後は、従来の「地域の情報拠点」としての役割に加え、「快適に憩い過ごせる場」や「交流・活動の場」としての機能をさらに充実させることが必要です。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 65
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
長岡京芸術劇場推進事業	一般	10	4	8	78,160,306	文化・スポーツ振興課

事業の概要

「長岡京芸術劇場」公演をはじめとした文化・芸術事業を推進します。また、子どもたちが文化・芸術に興味関心を持ち、活躍するまちづくりに取り組みます。
また、長岡京記念文化会館を拠点とした質の高い舞台芸術の提供と充実を図るとともに、記念文化会館の安定的な運営を目指し京都府に対して会館の活用や維持・改修を求めていきます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		長岡京芸術劇場の事業数				単位	事業
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
21（令和元年度）	目標	15	24	25	26	27	
	実績	12	18	22	22	24	

・5月4日に「長岡京芸術劇場　長岡京駅前広場コンサート」を開催しました。市内の中学・高等学校の吹奏楽部や一般の団体など10団体が参加し、多くの市民にご来場いただきました。
・長岡京芸術劇場事業として、長岡京芸術劇場実行委員会主催事業（6事業）、文化奨励事業補助金助成事業（6事業）、芸術劇場ロゴマーク使用申請イベント（11事業）を企画し、23事業を実施しました。
・長岡京芸術劇場実行委員会主催事業出演団体2団体による付帯事業として、市内の小学校への出張演奏会（1団体）や、市内中学生吹奏楽部対象のブラスクリニック事業（1団体）を実施いただくなど、児童生徒との交流を図りました。
・長岡京記念文化事業団に対し支援を行い、音楽、映画、ファミリー向け公演等の15事業を実施しました。
・長岡京記念文化会館の老朽化については、京都府（施設設置者）に施設設備の維持・改修を求め、計画的に対応を進めています。令和7年度には、ホール特定天井（天井落下防止）の改修および舞台機構設備等改修について工事設計を行い、令和8年度に改修工事実施の予定です。

長岡京芸術劇場（長岡京室内アンサンブル森悠子追悼コンサート）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・ゴールデンウイークに開催した「長岡京芸術劇場　長岡京駅前広場コンサート」や、長岡京記念文化会館にて開催した「長岡京芸術劇場主催事業」6事業をはじめ、長岡京芸術劇場事業として、合計24事業を実施することができました。目標事業数の達成には至りませんでしたが、入場者数はコロナ禍前に戻ってきています。 ・音楽を「聴く」「観る」「楽しむ」ことをコンセプトとして、市民文化芸術の育成や発表の機会の重要性を認識しながら文化の継続と発展をテーマとした公演を実施しました。 ・俳人の夏井いつきさんによる「句会ライブ」も実施しました。

課題等

・長岡京記念文化事業団と連携を図りながら、文化・芸術公演の更なるPRが必要です。
・長岡京記念文化会館の改修期間中、会場の確保や演目の調整が課題です。特に会場の制約により、一部の演目が縮小せざるを得ない状況が予想されるため、影響を最小限に抑えるためのさらなる調整が求められます。

5年間の総括

A（総括）

・コロナ禍により事業の中止や制限を余儀なくされる時期もありましたが、長岡京芸術劇場事業では、長岡京記念文化事業団をはじめ関係団体等と連携協力しながら、「長岡京駅前広場コンサート」、「長岡京芸術劇場実行委員会主催事業」、「文化奨励事業補助金助成事業」、「芸術劇場ロゴマーク使用申請イベント」の実施を通じ、地域の文化活動の振興に寄与しました。
・出演団体による小学校「出張演奏会」や中学校吹奏楽部への「ブラスクリニック」を開催し、次世代への文化教育の推進を図りました。
・長岡京記念文化会館では、音楽、映画、ファミリー向け公演等を展開するとともに、施設の老朽化対応として京都府と連携し施設改修を進めました。これらの活動を通じ、芸術文化の発展と安全な施設運営への基盤を強化しました。
・今後は新たな文化ニーズへの対応と柔軟な事業展開が課題です。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 66
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
文化活動推進・支援事業	一般	10	4	8	3,086,000	文化・スポーツ振興課

事業の概要

誰もが文化・芸術活動にふれ、参加してもらう機会を確保するため、文化団体の文化・芸術活動を推進し、活動支援を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	文化活動団体事業における参加者数（出品者、出演者、鑑賞者）					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
7,092（令和元年度）	目標	6,000	10,800	10,900	11,000	11,100	
	実績	3,876	7,854	8,058	7,193	6,264	

・長岡京市文化協会が主催する事業に補助金を交付し、市民の文化芸術の発表の場であり鑑賞の場でもある「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」等の実施について支援を行いました。また「文化講座」として「クラッシックバレエ講座」や「各種市民文化教室」の開催を支援し、初心者を対象にした文化芸術活動へのきっかけづくりを行いました。
・「長岡京市文化奨励事業補助金」制度（募集期間：4月と10月）を運用し、文化芸術に触れる機会を提供する実施団体の自主的な活動に対し支援を行いました。
・様々な世代に文化に触れてもらうため、「夏休み親子で牛乳パックでランタン作り」など、こどもやファミリー向けの事業を実施しました。

第63回市民文化まつり

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	文化まつり等文化事業における参加者数（出品者・出演者・鑑賞者）	・文化、芸術活動に携わる人が、固定化している傾向があります。 ・令和7年度の参加者数減少の一因は、合唱フェアが大雪のため中止になったことによるものです。	30

達成度合	達成状況
C：目標の一部を達成できなかった	・文化協会3大事業（「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」）を実施しました。来場者数は、天候の影響もあり、目標値を達成できませんでした。 ・「名月の宴」では、「夏休み親子で牛乳パックでランタン作り」に参加者（計33名）が作成したランタンを展示し、若い世代（こどもや子育て世代）も来場しました。 ・長岡京市文化奨励事業補助金の交付件数は、前年度と同じく6件の交付を行いました。募集期間を当初の4月だけでなく10月にも追加募集を行い、自主的な文化芸術活動への支援の機会を増やしました。 ・文化協会新規会員獲得のため、各サークルと協力し、HPの掲載やチラシ配架など、各サークルの活動内容を広く周知しました。 ・スポーツ分野や福祉分野と連携し、事業の活性化に取り組みました。 ・文化協会の会員数は減少傾向にあるものの、令和7年度は過去数年と比較して維持することができました。

課題等

・文化協会会員数は、年々減少傾向です。会員、各団体・サークル等と協力連携し、新規会員獲得、会員数維持への更なる努力が必要です。
・文化芸術活動に携わる人が、高齢化・固定化しており、担い手の不足が深刻な状況です。

5年間の総括

A（総括）

・コロナ禍により、活動の制限を余儀なくされましたが、関係団体等と連携しながら、文化芸術活動の継続や復活に取り組みました。
・令和5年度に創立40周年を迎えた長岡京市文化協会では、「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」などを支援し、多くの市民に文化芸術を楽しむ機会を提供できました。「夏休み親子で牛乳パックでランタン作り」などのこどもやファミリー向け事業を実施し、市民の文化芸術への関心を高め、幅広い世代が楽しめる文化環境の充実を図りました。一方で、コロナ禍の影響により会員数の減少や高齢化といった課題が浮き彫りになったため、会員と連携し新規会員獲得を目指した広報活動や「サークル体験会」の実施、市スポーツ協会や福祉団体とのコラボによる事業の活性化にも取り組みました。
・「長岡京市文化奨励事業補助金」制度をコロナ禍に対応した内容に見直し、実施団体の自主的な文化芸術活動を支援しました。これにより、文化芸術活動の持続可能な環境構築に努めました。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 67
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
総合的な文化財保存活用の推進	一般	10	4	5	188,817,648	文化財保存活用課

事業の概要

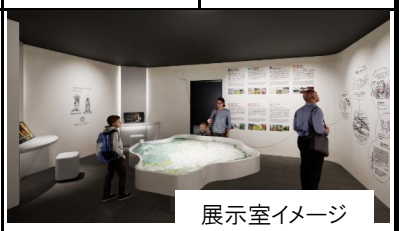
文化財保存活用地域計画の策定と新庁舎での歴史資料の展示公開を進めます。
計画の策定と合わせて、恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存に取り組みます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	文化財保存活用地域計画の策定、新庁舎での歴史資料の展示公開					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	文化財保存活用地域計画の素案作成	文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示内容検討	新庁舎歴史資料展示設計	新庁舎歴史資料展示施工	
	実績	長岡京市文化財保存活用地域計画の素案作成	長岡京市文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示室基本計画（案）の作成	新庁舎歴史資料展示室の基本設計の作成	新庁舎歴史資料展示施工	

・歴史資料展示室の実施設計、展示什器の製作・設置等を実施しました。
・施設の愛称募集を行い、「長岡京市まちなかミュージアム れきしる長岡京」に決定しました。
・国史跡乙訓古墳群井ノ内稲荷塚古墳の範囲確認調査を実施しました。
・文化財啓発事業として、歴史講演会や市内文化財の魅力を紹介する音声ガイドと連携した謎解き周遊事業の実施等に対する支援を行いました。（主催：文化財保存活用推進会議）


展示室イメージ

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・令和8年12月のオープンに向けた展示室の製作準備を着実に進めました。 ・施設の認知度向上のため愛称募集を実施し、全国547件の応募の中から、市公式LINEによる2,153件の投票を経て愛称名を決定しました。 ・井ノ内稲荷塚古墳の調査の結果、古墳の構造等が明らかになりました。 ・市内の歴史文化を体感できる乙訓寺客殿で開催した歴史講演会では、60名の定員に対して73名の応募がありました。 ・音声ガイドと連携した謎解き周遊事業では、2,000部の謎解きキットが配布済みとなり、488名がすべての謎解きを達成しました。
課題等	・歴史資料展示室の認知度向上のため、さらなる啓発活動の実施とともに、魅力ある展示室として機能させるため、企画展等を充実していく必要があります。 ・地域計画の重点事業に掲げている財源確保の取組に加え、歴史資料展示室を中心施設とした「まちなか博物館ネットワーク」の構築を目指し、文化財の保存活用をさらに推進することが必要です。		

5年間の総括

A（総括）

・長岡京市の歴史文化の特徴を「7つのものがたり」として市文化財保存活用地域計画にまとめました。この計画を広く発信することで、市民の理解と関心を深め、地域の歴史文化の魅力を再認識する機会を創出することができました。
・文化財保存活用地域計画の重点事業である歴史資料展示室の整備では、まちなか博物館ネットワークの中心施設として準備を着実に進めました。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 68
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
総合型地域スポーツクラブ推進事業	一般	10	5	1	15,111,026	文化・スポーツ振興課

事業の概要

全小学校区で総合型地域スポーツクラブの設立を図ります。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	総合型地域スポーツクラブの設立数					単位	小学校区
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
8（令和元年度）	目標	8	8	9	9	10	
	実績	8	8	8	8	8	

・8つの小学校区で設立されている総合型地域スポーツクラブへスポーツフェスティバル開催などの支援を行いました。
・総合型地域スポーツクラブ未設立の校区については、地域スポーツ振興事業の委託などによる支援を行うとともに、クラブ設立に向けた働きかけや問合せの回答を行いました。

市民スポーツフェスティバル（長五小）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民スポーツ実施率	市民スポーツ実施率は、増加傾向にあります。	29

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・8校区で設立されている総合型地域スポーツクラブを中心に、イベントや教室を開催し、校区住民の運動、スポーツの機会を提供することができました。 ・未設立の校区に対して設立に向けた働きかけを行った結果、令和7年度までの設立には至りませんでしたが、1校区については令和8年度に準備委員会を立ち上げる方向で話を進めることができました。

課題等

・総合型地域スポーツクラブの運営やイベント開催時の担い手の人数不足や高齢化が課題です。
・未設立校区では、総合型地域スポーツクラブ設立に向けた組織の設立や実施意欲を高めるための活動が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・この5年間で新設には至りませんでしたが、未設置校区においてスポーツ関係者が集まる場で説明を行い、校区内で協議や検討を進めました。その結果、長六小校区において令和8年度に設立準備委員会が立ち上がる見込みとなりました。
・総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツ関係団体を支援し、市内全10小学校区で運動やスポーツを通じた地域コミュニティの醸成に寄与することができました。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 69
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
スポーツ交流推進事業	一般	10	5	1	45,003,505	文化・スポーツ振興課

事業の概要

若葉カップ全国小学生バドミントン大会を通じ、競技力向上の機会と広域的な交流を深める機会を創出します。また、市民が身近な校区で運動・スポーツに親しめるよう、小中学校の体育施設を開放し、運動・スポーツのできる環境の確保に努めるとともに、スポーツ少年団の育成やスポーツ団体連合会の活動の支援を図ります。さらに、パラスポーツなど誰もが楽しめるスポーツの推進に取り組み、市民のスポーツ実施率を高めます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		学校開放・夜間照明利用件数				単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
9,212（令和元年度）	目標	9,800	9,400	9,400	9,400	9,800	
	実績	5,038	9,563	10,099	9,721	9,805	

・小中学校施設を開放し、学校開放事業及び夜間照明施設事業を行いました。
・「第41回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」を開催しました。
・「第61回市民大運動会」及び「第37回市民スポーツフェスティバル」を開催しました。
・地域スポーツの振興を図るため、スポーツに親しむ行事等の実施を各校区に委託しました。

市民大運動会（長法寺小）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民スポーツ実施率	市民スポーツ実施率は、増加傾向にあります。	29

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・5つの小学校において、体育館の空調を整備しました。整備期間中、体育館の使用制限を受けた期間が1か月程度ありました。利用人数の実績は、中学校体育館や武道場の空調工事を行った昨年度と同程度となりました。 ・「若葉カップ全国小学生バドミントン大会」は6年ぶりに開会式を西山公園体育館で行い、また予選リーグを昨年度と同様、西山公園体育館と向日市民体育館の2か所に分けて行いました。

課題等

・「若葉カップ全国小学生バドミントン大会」は、長年全国から参加される大会として本市で開催されていますが、審判体制や駐車場不足などの課題もあるため、今後も安全で円滑、持続可能な大会運営ができるよう、実行委員会や関係機関と密な連携や入念な準備が必要です。
・「市民大運動会」や「市民スポーツフェスティバル」の運営の担い手不足や高齢化が課題です。

5年間の総括

A（総括）

・利用件数はコロナ禍以前の水準まで回復しており、令和8年度の空調整備工事完了後はさらなる増加が見込まれます。
・個々のスポーツ団体の構成人数やイベントを支える担い手の減少・高齢化が進む中、参加促進や負担軽減などを図るため、各校区のスポーツ関係者と協議しながら必要な支援を継続することが重要です。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 70
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
スポーツ施設環境の整備	一般	8	4	5	58,661,310	文化・スポーツ振興課
	一般	10	5	2	20,115,080	

事業の概要

スポーツ活動の拠点である西山公園体育館やスポーツセンターの適正な維持管理に努めながら、多くの市民がライフステージに応じたスポーツを楽しむことができるよう、市民スポーツ活動の充実を図ります。特に老朽化が進むスポーツセンターについては、体育館機能の移転、現行敷地の屋外機能の拡充等を含む再整備について検討し、具体化を図ります。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		体育館等施設利用者数（西山公園体育館・スポーツセンター）				単位	人
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
268,232（令和元年度）	目標	240,000	272,500	275,000	277,500	280,000	
	実績	153,657	196,762	206,842	250,350	257,787	

・施設の老朽化が進む中、設備・備品の修繕や更新を適宜実施し、施設の維持管理に努めました。
・熱中症アラート等の発令に対して、利用取消に伴う還付を引き続き行い、健康被害の予防に努めました。

西山公園体育館

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市民スポーツ実施率	市民スポーツ実施率は、増加傾向にあります。	29

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・コロナ禍以降、利用人数は回復傾向にあるものの、1団体あたりの構成人数の減少や、熱中症アラートの発令による利用取消などが影響し、目標達成には至りませんでした。 ・西山公園体育館においては、館内のLED化、バスケットゴールの修繕、競技用大型トランポリンの購入、椅子の更新を行いました。 ・スポーツセンターにおいては、体育館の耐震化、屋根・消火ポンプ・夜間照明の修繕を行いました。

課題等

・両施設とも、老朽化する設備を、安全を最優先に、緊急度に応じた計画的な更新を行う必要があります。
・スポーツセンターについて、再整備に向けた検討を進めます。

5年間の総括

A（総括）

・両施設とも、緊急度に応じた設備の計画的な更新、修繕を行い、利用者サービスの維持、向上に努めました。
・コロナ禍の影響が収まり、利用件数は回復したものの、利用者数は目標達成には至っていません。
・利用率は高い数値を維持している一方で、1団体当たりの人数が減少傾向にあることから、今後も全体の利用人数は同程度で推移すると考えられます。